



監督・脚本=矢口史靖／出演=
上野樹里／貫地谷しほり／本仮
屋ユイカ／豊島由佳梨／平岡祐
太／竹中直人／白石美帆／谷啓
(東宝配給／2004年日本映画／
105分)

主人公は、落ちこぼれ気味の、山形弁をあやつる田舎の女子高生（失礼？）グループ。そんな彼女たちが、ひよんなきっかけから、突然ビッグバンドジャズの魅力に開眼！ トラブル続出のストーリーが面白いうえ、ラストの盛り上がりは最高！ こんな単純で楽しい感動映画（？）大好き……。ジャズのスウィングの楽しさを満喫しよう。

🎬 主人公は、落ちこぼれ（？）の田舎女子高生

映画の冒頭は、東北地方の片田舎にある山河高校の夏休みの補習授業風景から。折りしも、高校野球地方大会の真っ最中。高校野球の応援にはブラスバンドが不可欠。今日の試合の応援のため、専用バスで球場に向かう華やかなブラスバンド部を、補習中の教室の窓からボンヤリ眺める鈴木友子（上野樹里）。数学の補習をしている教師は小澤忠彦（竹中直人）。受ける生徒は女ばかり13名だが、どちらもやる気は全くなし。先生は1人で勝手にしゃべるだけ。他方生徒は、化粧したり、写真を撮ったり、まるで猿芝居のような授業風景。これがそのまま続いたらエライことだが、この映画では、この落ちこぼれの女子高生グループ13名が、一転して「スウィング」の楽しさに目覚める、というのがテーマ。

🎬 ブラスバンドをやるきっかけは？

13名の落ちこぼれグループが、ブラスバンドをやることになったきっかけは、

授業をサボるために提案した、球場への弁当運び。運び遅れた弁当屋の弁当を、自分たちが球場に届けると言ったのはいいものの、電車を乗り過ごすわ、途中でつまむわ、果ては、炎天下徒歩で弁当を運んだことによって、ブラスバンド部員全員が食中毒に……。いや、1人だけ助かった奴がいた。それは、弁当をつまみ食いされたおかげで弁当にありつけなかった中村拓雄君（平岡祐太）。

中村君は次の試合のブラスバンドでの応援のため、急きょ、この13名にプラスアルファを加え、17名編成による、ビッグバンドジャズをやることを提案した。13名は、補習を免れるいい口実ができた、その話に乗ったが、もともと真剣にやる気などなし。中村君からの腹筋強化の練習メニューもサボりがち。そして、トランペットやトロンボーンなどの音すらでないありさま。

こんな状態ながら、ギターを弾くヘンな2人組の女の子と、メガネをかけた引っ込み思案のちょっと変わった女の子が加わり、中村君を入れると、17名編成のビッグバンドが誕生した。そしてやっと、リズム感もなく、ケツタイな音ながらも、『A列車で行こう』を、一応演奏することができるまでに成長(?)……。さあこうなると、鈴木友子ら13名の落ちこぼれ集団も、ジャズバンドの楽しさに目覚め始めたが……。

そこに入ってきたのは、食中毒の治療を終えた、正規のブラスバンド部員たち。ブラスバンド部の美人顧問教師、伊丹弥生嬢（白石美帆）の「あとはこっちに任せて！」の言葉に、友子ら臨時のやっつけメンバーは、何も言えないまま……？

トラブル続出……！ でも……

いったんジャズバンドの楽しさを体感した友子は、その後ふぬけのようなボーッとした毎日。楽器店をのぞいてみると、テナーサクスは、30万円以上もするしるもので、とても手が出ない。そこで、中古（ほとんど骨董）のサクスをムリヤリ購入(?)し、吹いてみると音がでた。それに合わせてキーボードを演奏するのは中村君。そこにトランペットの斉藤良江（貫地谷しほり）や、ドラムスの田中直美（豊島由佳梨）、そしてトロンボーンの関口香織（本仮屋ユイカ）が合流し、ギターを弾く2人娘とともに、堂々(?)のバンドデビュー！ それま

での道のりも大変だったが、しかし、これ以降17名のビッグバンドを組むまでも、ハードで困難な道のり。そのトラブル続出のドタバタ劇の面白さは抜群！

竹中直人、谷啓などオモロイ脇役陣

最初に登場した、さえない数学教師小澤忠彦が、実は大のジャズマニアだった、というのがこの映画の1つのミソ。その彼が、友子らのにわか仕立てのジャズバンドを指導することになったが……？ 他方、谷啓演ずる森下は、ホンモノの音楽教室の教師。一体、彼の生徒は誰？ さらに、ギター娘2人の元カレ2人が登場し、中古楽器の修理に大奮闘。彼ら2人は最後の演奏会でも、派手な横断幕での応援にハッスル。これらのオモロイ脇役と、17名のジャズバンドのメンバーとの人間関係も面白い。

ライブ感覚となった感動的な演奏会

何が幸いするのかわからないもの。各校が出場する演奏会当日は、何と大雪。応募遅れという友子の大チョンボのために出場できなくなったことを告げられないまま列車に乗った山河高校の17名のメンバーに、これが幸いした。友子の「告白」によって、いったんは地獄の底に突き落とされた17名は一転して……？

さあ、ギリギリ間に合った。他校の演奏は、オーソドックスなクラシックの曲目がほとんど。そんな中、最後に登場した山河高校の17名による、ビッグバンドジャズの演奏は……？ 1曲目の『ムーンライト・セレナーデ』は、座ったままのおとなしいスタンダードナンバーの演奏だが、2曲目、3曲目になるにしたがって、総立ちとなって拍手を送る観客と一体となった盛り上がりは最高潮に……。パンフレットによると、この演奏は吹き替えなしのもので、17名のメンバーの猛練習の成果とのこと。

さすがに、若さは大したもの。いやはや、恐れ入りました……。こんな、単純で楽しく、感動的な映画が、私は大好きだ！

2004(平成16)年6月8日記